

# せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成20年4月 第86号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

## 最期は遺伝子に任せて

鮭は故郷の川に帰って産卵し、そのまま死滅します。どの様にして故郷の川が判るのか? 不思議です。遺伝子のなせる業で川を上り、自然の摂理に添って最期を迎えます。

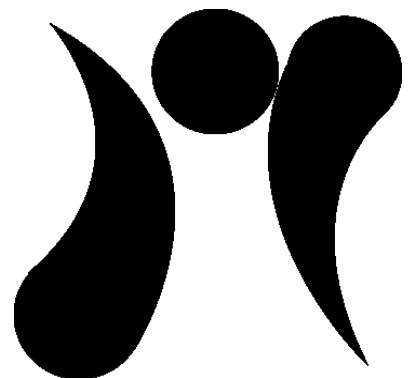
人の老いと死も自然の摂理です。遺伝子には、自然の摂理に添って最期を迎える為の準備の数々と、その手順が記憶されているのだと感じます。

古来より人は不老不死を願い、最近ではアンチエイジング。アメリカでも日本でも様々なエクササイズが流行り、多くのサプリメントが売られています。多くの方が老いに抗い、加齢に抵抗し、死の回避を望んでいます。そして最近、介護施設の利用者の中で、餓死と窒息を防ぐ目的で胃ろうと気管切開を施す方が増えています。

しかし介護現場に永く居ると、胃ろうや気管切開をした人が最期を迎える時、自然物には無い装置による生命体の反応に、困惑しきっている肉体の叫びが聞こえるように感じます。体調が悪く食欲のない時にも一定量の栄養剤が胃に直接注入される事も、気管に空いた穴から空気が肺に直接入って来る事も、遺伝子情報には無いものです。

特養開設から20年以上が過ぎ、200人を超える方々の最期を見送り、多くの方の安らかな顔が思い浮かびます。死の恐怖や苦悶といった厳しい表情は窺えず、例外なく穏やかで安らかな表情であった事を思う時、要介護になられてからの数年間の暮らしは、自らの主役らしい幕引きを演出する遺伝子のなせる業であった事を確信します。

(次ページにつづく) せいりょう園 渋谷 哲





## 苦情調整委員会 19年度報告

せいりょう園では、3名の第三者委員（内1名は病欠）と施設側4名で毎月1回苦情調整委員会を開き、11カ所に設置しているご意見箱を開けて投書を確認し、各部署でご利用者やご家族から寄せられた苦情への対応を報告し検討しています。19年度1年間の報告を致します。欠員お一人については、5月の評議員会の選任とあわせて決定する予定です。

### I. 苦情相談窓口にて受付

苦情受付日	部 署	内 容
19.5.18	ショートステイ	ふれあいノートの記載内容を帰宅時に説明しなかった
5.24	ショートステイ	バルーンキャップを取り違えて帰宅した
6.24	デイサービス	利用料のおつりが少ない
7.4	ヘルパー	朝食のフルーツが茶碗の蓋に入れて配膳された
7.4	ヘルパー	1時間の滞在訪問を45分で切り上げた（※）
11.22	ショートステイ	利用中に男性職員より不快な思いをさせられた
11.27	相談室	自宅のお金が紛失しヘルパーを疑っている
12.5	相談室	ケアマネからの電話連絡がこない

※1時間の滞在訪問：詳しくは30～60未満のプランであること説明

### II. ご意見箱開票 〔開催 12回、内投票 9件〕

委員会開催日	ご意見箱設置場所	内 容
19.4.25	ケアハウス	漬物の着色(紫の漬物・赤い福神漬け)が気味が悪いので中止してほしい
5.22	喫茶ルーム	最初は気が重かったが入居して楽しい
6.27	喫茶ルーム	リバティ付近の道が凸凹で転倒の危険があるので改善してほしい
8.29	喫茶ルーム	ヘルパーの人事異動について
20.1.23	従来型特養 ユニット型特養	歌を唄うことが好きなので歌を聴いてほしい 解読不能
2.27	ユニット型特養1 // ユニット型特養3	従来型特養に行った際に職員の声かけの内容にショックを受けた 喫茶に出る珈琲・紅茶・甘酒の量が少ない 食事の食材が細かすぎて食べないと思う お箸の使い方を忘れてきているが、教えるとできるのでフォローしてほしい

苦情受付事項については、対応や謝罪は即時に行っており、委員会では事後報告となりますが、幅広い視野での貴重な意見を伺い、対応方法について議論しています。

<平成20年度事業計画書>

基本理念

老いと死は自然の摂理であり、高齢者にとって要介護の期間は、最も自然で安楽な最期を迎える為の準備期間です。その過程を懸命にベストを尽くして生きる高齢者の姿に、自立した存在としての価値と輝きと尊厳が在ります。

平成20年度運営方針

20年度の早い時期に、小規模多機能型居宅介護事業を開始します。個室ユニット型の特別養護老人ホームは介護付きの居住施設を目指し、一方で小規模多機能型居宅介護事業は、居宅介護サービスを利用して重度の要介護者が自宅で最期まで生活する途を探ります。

介護保険事業は、重度の要介護者を主要な利用者として事業展開する事が求められています。訪問介護や通所介護の利用者の現状は、重度になり利用頻度が増えてくると途端に入院や入所になり、在宅サービスを利用しなくなる傾向が目立ちます。重度の要介護者が永く居宅で暮らせる手立てを講じ、長期間サービスを利用して貰う事が、介護保険事業経営の安定につながります。

全事業を通じて、地域ケアの一端を担う事業である事を認識し、認知症や要介護の方々生活をさり気無く支える準備を地域の中に広げ、多様な人々の暮らす活力ある地域づくりに貢献します。また、ノロウィルスやインフルエンザ等の感染症対策についても、職員は元よりご家族や地域の方々も含めて、過敏に過ぎること無く、適正な対処方法の普及に努めます。

第三者委員の入る苦情調整委員会と各事業・職種の責任者・主任で構成する処遇連絡会を中心に、業務内容に検討を加え、海外研修も含め内外各種の研修の機会を積極的に活用して、サービスの向上に努めます。

最期を迎えるお年寄りに寄り添う介護職としての資質の向上に努め、音楽や芸術や自然に親しみ、自らの感性と感覚を磨きます。

1 地域支援センターのぐち南の運営（加古川市委託事業）

介護予防とは、1つは要介護の防止。1つは要介護への準備。健康を維持・改善するお手伝いと、要介護となっても落ち込むことなく、明るい気持ちで意欲的に生き、安楽な最期を迎える為のお手伝いです。

要介護になっても、自分の持つ能力で懸命に努力するプロセスこそ、人として最も大切な尊厳ある暮らしです。認知症の人やターミナル期の方の暮らしの中にその尊厳を見だし、最期まで支える為に、地域包括支援センターと協力して、地域の中で様々なネットワーク創りを工夫します。

2 指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の運営（略）

3 指定短期入所生活介護事業（ショートステイ）の運営（略）

4 指定通所介護事業（デイサービスセンター）の運営（略）

5 指定訪問介護事業（ホームヘルパーステーション）の運営（略）

6 指定訪問看護事業の運営（略）

7 小規模多機能型居宅介護事業の運営（略）

8 指定居宅介護支援事業（介護相談室）の運営（略）

9 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）の運営（略）

10 軽費老人ホーム「ケアハウスせいりょう園」の運営（略）



# 介護現場発情報

～かけがえのないひとときを～

ユニットより

ユニット池の向一丁目リーダー 入江良行



昨年9月よりユニットが開設して、かなりの月日が経過しました。初めのうちは期待と不安が入り交じって「何をすればいいんだろう？」の連続でした。今でもそれは変わらないのですが、半年以上経った今「何とかなるものだなあ～。」というのが率直な感想です。

最近、池の向一丁目のリーダーとなりました。一丁目の入居者は自立された方も居て、自分の意見を持っている方が結構おられますが、身体が不自由な為に思うようには出来ない歯痒さを感じている方が大半です。その方々の身体面の介護も大切ですが、一緒に生活を共にする介護者として、その方の心の介護も出来るようになりたいと常日頃考えています。

せいりょう園に入社して6年目を迎えました。その間色々な経験をさせて頂きました。その中で印象深い出来事を書き記します。入居者Hさんという男性利用者との関わりです。

Hさんは話好きで、よく全国の美味しい物を食べ歩いた話を職員にしていました。そんなHさんが末期ガンで寝たきりとなり、痛みがある場合は大声で叫び続けておられました。食事も喉を通らず水分を摂取するのも困難な時期でした。そんなある日、私はHさんの昼食時に居室に入り介助するも、やはり拒否がありました。「何か食べたい物はないですか？」の問いかけに対して「うどん…」と微かな声で言っていました。何日間も碌に食べてないのに果たしてうどんが食べられるのだろうか？と感じましたが、元気な頃、自分で喫茶のうどんを注文して食べられていた事を思い出し、上司に報告。許可が出たので、うどんを居室まで出前して貰い介助にて提供。すると今まで殆ど何も口にしなかったHさんが「美味しいなあ～」と涙を流しながらうどんを全部食べられました。

その数週間後Hさんは穏やかに息を引き取られました。最期の看取りは私の夜勤中でした。家人と共に死後の処置をさせて頂き、園での告別式に参列し見送った後、私はうどんが食べたいと言ったHさんの願いが聞けて良かったと感じました。グルメで舌が肥えているHさんが、うどんを食べて泣いている姿を見た時、この方の心の琴線に触れたような気がしました。そして最期を私に看取らせて頂き、感謝の心でいっぱいです。告別式後、熱いものが込み上げてきました。今でもその事を思い出すと「有難う、Hさん。」という気持ちにさせて頂きます。

現在、一丁目の入居者の皆さんも、老いには逆らえないのです。その現状に対して私は逃げずに入居者の琴線に少しでも触れる事の出来るような介護を心掛けて日々精進していきたいです。



## せいりょう園待機者状況

<平成20年 4月15日現在>

判定済み者(275名)の内訳

グループ... 105名  
グループ... 108名  
グループ... 56名 } 計269名

入所... 1名  
死去... 3名  
申込キャンセル... 2名

判定済待機者(269名)の内訳

在宅96名 / 特別養護老人ホーム入所中6名 / 医療機関入院中69名  
老人保健施設入所中85名 / ケアハウス入居中5名  
グループホーム入居中7名 / 有料老人ホーム入所中1名

今回の仏教講話は、八幡町下村にある萬福寺の宮永老僧に来て頂いた。例によって事前にインターネットで検索。『八幡町探訪：下村困窮す』という項目が目に入る。「八幡町下村に熊尾山萬福寺と言う曹洞宗の寺があり、ここの墓地に昔日の功績を称えた「碑」がある。」

資料によると、延宝年間(1673-81)に当地方は大飢饉に見舞われた。年貢米はおろか生活にも事欠いた農民の窮状を知った役人の富塚久衛門が、城主に上奏し二年間の年貢米取立て中止の措置を取った。庄屋以下農民は大いに感謝し、久衛門の死後、元禄16年8月この碑を建て供養したとあった。以上のようなことを簡単に述べご住職を紹介した。

先ず宗派の紹介から始められ、萬福寺は禅宗の一派である曹洞宗のお寺で、永平寺と総持寺を両本山とする。永平寺はあまりにも有名だが、神奈川にある総持寺には、俳優石原裕次郎の墓もあると話される。そして、一枚の葉書を取り出され読まれる。これはある40代の女性からの喪中の葉書で内容は「自分の母が1月に急性心不全で亡くなった。父も暫くはショックで弱っていたが、最近では元気を取り戻してくれて、喜んでいて。大変な一年であったが何とか元気でやっています。ところでご住職は如何お過ごしですか?.....」ご住職は言われる。

「非常に的確に状況を述べ、最後に相手の事にまで気を使うことを忘れない、本当に行き届いた一文であります。中には『喪中につき年末年始のご挨拶を控えさせていただきます。』とだけあって、誰に、いつ、どのように不幸があったのか分らなく、却って余計な心配を懸けられた事もあります。ちょっとした気配りがあれば救われることもあります。とは言うものの、この世の中は生きていれば苦しいことが多いものです。仏教界では『一切皆苦』と言って、一切の現象的存在は全て苦であるとする考えがあります。皆さんは『四苦八苦』と言う言葉をよく耳にされる事があるでしょう。四苦八苦とは仏教用語で、本来は人間のあらゆる苦しみを言う言葉です。」

ここから四苦八苦の説明が始まる。

先ず、四苦。これは『生老病死(しょうろうびょうし)の事で人間として、逃れられない必然的な苦しみをさし、八苦とは生老病死の四苦に『愛別離苦』、『怨憎会苦』、『求不得苦』、『五陰盛苦』を加えた八つの苦との事で、後半の四苦は自己中心的な人ほど苦しみは深い。(ドキッ!!)

- ・愛別離苦(あいべつりく) : 愛する人と別れる苦しみ
- ・怨憎会苦(おんぞうえく) : 怨み憎む人と出会う苦しみ
- ・求不得苦(ぐふとくく) : 求めるものが得られない苦しみ
- ・五陰盛苦(ごうんじょうく) : 物心両面に執着する苦しみ

お釈迦様は修行を重ね、あらゆる苦しみに対応する悟りを開かれた。それが仏教であり、その真理をまとめたものが『三法印：三つの真理』で、それは、

- ・諸行無常：全てのものは移り変わる(良い事ばかり、悪い事ばかりは続かない。)
- ・諸法無我：全てのものは一人では存在しない(助け合って生きているんだ。)
- ・涅槃寂靜(ねはんじやくじょう)：欲望・煩惱の灯が消えれば身心は落ち着いていける。

これらは仏教の『トレードマーク』と言えるものです、とおっしゃる。

最後の締めくくりとして、ご住職の『今年のコトワザ』を話された。

①雑用と言う用はない：どんな仕事にも意味はある。他の人の為になっているのだから、常に創意工夫が大切だ。

②楽な生活には感動がない：同じ結果を得たとしても、そこに至るまでの過程・努力があつて、その達成感も異なる。

③「ごめんなさい」が全てを解決する：絶えず謙虚さを持っていたいものです。

今回の講話、ボリュームたっぷり、レベルの高い内容に感じられたが、年末年始にご自身が受け取られた幾枚かの葉書を具体的な事例として紹介され、分りやすく講話頂いた。

参加者の多くが感動を受け、涙する人も見受けられた。機会があれば又、ご高話賜りたい。

～5月の仏教講和は第2週目の5月12日（月）に変更になります～

#### <第4回グループホーム運営推進会議の報告>

日 時 平成20年3月8日(土)

14:00～16:00

場 所 リバティかがわ2Fホール

参加者 推進委員 8名 入居者家族6名 職員 1名

#### 議題1. 行事報告

非常食の日、外部評価、介護者の集い 等

#### 2. 実習生受け入れ実績の報告

#### 3. 昨年末に発症したノロウイルスの状況説明

#### 4. ひやり、はっと事故報告

#### 5. 医療連携体制加算制度の概要説明

#### 6. 新年度の委員交替について（家族代表のみ交替）

新委員 グループホーム憩 : 新林 様

〃 まどか: 山本 様

#### 7. 意見交換（質問、感想）

Q. ノロウイルスの検査費用は？

A. 検査機関によってかなりの差がある(ex:3,000円～30,000円)

入居者家族より

- ・行政の方の参加をもっと促して欲しい
- ・職員の名前がなかなか覚えられないので名札を付けたらどうか

#### 8. せいりょう園機関誌（84号）読み合わせ

『介護は長寿の贈り物』

園長より

- ・介護は大事な経験であり体験で、意義のあるもの
- ・介護を迷惑だと捉えた時それは価値のないものになる
- ・介護期間をゼロにすることが良いことだと思わない

等、介護とは人生の中で貴重な体験であり、自らの老いや死を考える良いチャンスである とのことでした。